



パーソナルビジネス特集に寄せて

執行役員

齋藤 邦彰

パーソナルコンピュータ（パソコン）が世の中に登場してから30年以上が経ちました。当初はワープロや表計算を行うツールとして、そしてネットワークにつながるようになってからは、その膨大な情報を手に入れて活用するための端末として、パソコンは常にICTの最先端をお客様へ提供してきました。

更に近年では、クラウド社会への移行により、ICTを利用する時空間が広がっています。お子様からお年寄りまで、今までより多くの人々が、より多くの時間や場所でICTの恩恵を享受できる時代がすぐそこまで来ています。こうした流れの中でパソコンも、ハード面ではスマートフォンやメディアタブレットといった目的や利用シーンに応じた新しいカタチに進化し、ソフト面でも指で画面を操作する「タッチ」に代表される、新しいカタチを最適に使いやすくするユーザインタフェースへと進化しています。

また機能面においても、いつでも・どこでもの具現化に加えて、先の東日本大震災や計画停電などをきっかけとした安心安全とエコ意識の高まりへの対応など、ICTが果たす機能・役割への期待も大きく変化しています。このようなICTを取り巻く環境の変化に素早く対応し、フロントエンド発で新しいライフスタイルやワークスタイルを提案していくことが富士通の使命であり、そのために取り組まなければならないことはいくらかでもあります。

クラウド社会の広がりや従来のワークスタイルは大きく変革し、また多様化していくでしょう。それぞれのお客様に最適なクラウドへのマイグレーションを実現するために、その接点であるフロントエンドの役割は重要です。その第一歩はお客様の声を徹底的に聴くことであり、富士通では生保営業職員様向け端末やエンジニアリングクラウド向けワークステーションの開発など、「もの」起点ではなく「こと」起点の開発に取り組んでいます。

また新しいワークスタイルを支える基盤技術としてセキュリティは特に重要です。常に利便性とセキュリティはトレードオフの関係にあります。安心安全かつ利便性を損なわずにICTが利用できる環境を実現するために、従来からある技術のクラウド対応やデバイスの小型化に加え、新しい認証技術の開発にも取り組んでいかなければなりません。

ライフスタイルやワークスタイルを変革していくには、自ら提案・発信していくことも重要です。これら変革に向けたICT利用シーン創出への取組みとして、例えば従来のらくらくパソコンに加え、女性のお客様向けの端末などライフスタイルにマッチしたデザインを取り入れた製品を提供しています。また省電力ニーズへの対応として、パソコ

ンとクラウドサービスを連携させ、新たな価値を提供する「My Cloud」構想を軸に、家電コントロールの中核となるHEMSへの早期対応、家電の電力消費量や室温・湿度などを測定する機器「F-PLUG」の提供など、利用者の裾野を広げる施策を実施しています。

更に昨今では、ウェアラブル型（メガネ型や腕時計型など）の機器によって、より自然な形でICTを生活の中に溶け込ませる取組みが始まっていますが、富士通でも、「杖」をクラウドと連携させることによる歩行ルートナビゲーションやバイタル情報の蓄積による健康管理サービスなど、次世代ICTの姿を具体的に提案していきたいと考えています。

このように、ICTに求められるニーズは目まぐるしく変化しています。富士通は自社でR&Dと製造工場を持つ強みを生かし、プロアクティブに対応していけると考えています。

本特集号では、これまでの延長線上だけにとどまらず進化を続けるプロダクトやサービス、ソリューションと、それを支える要素技術の最先端をご紹介します。

富士通は、「B to Bから、B to B to Frontへ」という攻めの構造改革を掲げ、強みである垂直統合を生かした新しいサービスや新しいソリューションに今以上に注力していきます。その要の一つであるフロントエンドが、富士通の目指す社会創りに大いに貢献すると信じております。

今後とも富士通のパーソナルビジネスにご期待ください。

